

# 障害者用ICカード研究・開発

## 東タク協環境 車両資材委 割引を利用しやすく

東京ハイヤー・タクシー協会は7日、市ヶ谷の自動車会館で環境・車両資材委員会（根本克己委員長）を開き、障害者手帳の提示を受けなくても運賃を割引できる「特別割引用ICカード」の開発を研究することを決めた。関西の鉄道・バスで採用されているシステムを手本にする。昨年12月に開かれた内閣官房の「ユニバーサルデザイン2020評価会議」で簡素化を求める意見が出ていた。

根本委員長は「Maas（マース、移動サービスの連携・統合）やパラリンピックで、タクシーも障害者が簡便に移動できるよう対応しなければ。ユニバーサルデザイン車両が作られ、

経済産業省からは決済機の補助金が出る、すべて良いタイミングだ。JRなどと連携しながら仕組みを考えたい」と話した。

10月の消費税10%引き上げ対策として講じられる経済産業省の「キャッシュレス・消費者還元事業」（10月～来年6月）に関し、説明があった。タクシー関係

決済機の導入も補助金の対象になっている。

川村泰利副会長は「五輪に向け、国がキャッシュレス化に動いている。279



8億円の補助が出て、客に5%のポイントが付く。われわれには決済機が、ただで手に入った、決済手数料が3分の1削られたりといろいろな施策が出ている。利用者利便の向上に努めたい」と意欲を示した。

根本氏は「今の運賃の決め方、総括原価方式のコストに（決済）手数料は含まれておらず、経営を圧迫している。増税のタイミングだと乗値上げと言われるが、そこでない機を捉え、決済コストを入れた運賃改定が必要」とした。

会館の地下駐車場でトヨタ「JAPANタクシー（JPN TAXI）」の改良型を見学。スロープ板などが改善され、車いす乗車の作業時間が短くなった様子を確認した。

改良型JPNタクシーを見学した。トランクを確認する根本委員長。隣は川村副会長（7日、市ヶ谷）